

ご理解とご協力のお願い

採血は健康診断で必要な医療行為であり、基本的手技に従いながら、注意を払い実施していますが、まれに合併症が起こる可能性もございます。

以下の内容をご一読いただき、必要性・合併症をご理解の上、採血をお受け下さいますようお願い申し上げます。

アレルギー

採血に使用するアルコール綿やばんそうこう、採血者の手袋（ラテックス）でアレルギー症状がでる場合があります。

過去にアレルギー症状があった方はお申し出ください。

内出血・皮下出血

採血時、皮下出血（青あざ）ができることがあります。採血後の止血が不十分であることが原因です。5分以上止血をお願いします。

血液をサラサラにする薬を内服中の方や血が止まりにくい方はお申し出ください。

採血に伴う 合併症

神経損傷

採血後に手指へひろがる痛みやしびれが持続することがあります。頻度は1万回～10万回に1度とされています。皮膚表層の神経分布は個人差が大きく、神経損傷を100%防止することはできません。

痛みやしびれが続く場合はお申し出ください。

迷走神経反射

緊張や不安が強いと起こりやすいとされています。急激に血圧が下がる、めまいや気分不快感意識消失が起こることもあります。

採血が初めての方、過去に採血で意識消失を起こしたことがあれば必ずお申し出ください。

参考：標準採血法ガイドラインに基づく正しい採血法(2021.12 第3版)

- 一回で採血が難しい場合、採血部位をカイロで温めたり、採血者を交代させていただく事もあります。
- それでも採血が困難な場合、日を改めて(健康診断期間中)再度お越しいただくようお願いする場合があります。